

第5号様式（第7条関係）

会 議 録

会 議 の 名 称	第3回清須市子ども・子育て審議会
開 催 日 時	平成25年12月19日（木）午前10時から11時20分
開 催 場 所	清須市役所清洲庁舎2階202会議室
議 題	<p>1 開会</p> <p>2 あいさつ</p> <p>3 議事</p> <p>（1）子ども・子育て支援新制度の概要について</p> <p>（2）子育て支援に関するアンケート調査について</p> <p>（3）清須市次世代育成支援行動計画の事業評価について</p> <p>4 閉会</p>
会 議 資 料	<p>会議次第</p> <p>資料1-1 子ども・子育て支援新制度の概要について</p> <p>資料1-2 新制度の保育所及び幼稚園について</p> <p>資料2-1 子育て支援に関するアンケート調査単純集計表（就学前児童保護者）</p> <p>資料2-2 子育て支援に関するアンケート調査単純集計表（小学生保護者）</p> <p>資料3 清須市次世代育成支援行動計画 事業評価の達成状況について</p>
公開・非公開の別（非公開の場合はその理由）	公開
傍 聴 人 の 数 （公開した場合）	2人
出 席 委 員	小川委員、村瀬委員、日下部委員、花井委員、堀田委員、赤尾委員、塚本委員、中川委員、藤田委員、荒井委員、安藤委員、星野委員、建部委員、谷委員、原田委員、中田委員、福田委員、富田委員、小原委員
欠 席 委 員	なし
出 席 者（市）	大鐘健康福祉部長、浅田学校教育課長
事 務 局	〔子育て支援課〕林課長、杉村主幹、伊藤副主幹、浅井係長
会議録署名委員	中川委員、藤田委員

1 開会

●事務局

皆様おはようございます。

定刻となりましたので、ただ今から「清須市子ども・子育て審議会」を開始します。本日は、お忙しいところご出席いただきまして、誠にありがとうございます。私は、子育て支援課の林と申します。よろしく願いいたします。最初に、事務局から出欠状況について、ご報告させていただきます。本日は、全ての委員の方がご出席ですので、本会議は成立していることをご報告させていただきます。また、会議及び会議録につきましては、清須市附属機関等の会議の公開に関する要綱において、個人情報など非公開という扱いをしているものを除き、原則公開することになっています。従いまして、本会議及び会議録は公開とさせていただきますので、よろしく願いします。なお、本日は、傍聴者の方がお見えになっております。傍聴者の方には、入場していただいておりますので、よろしく願いいたします。それでは、開会にあたり小川会長よりご挨拶を申し上げます。

2 あいさつ

○小川会長

あらためましておはようございます。本来であれば市長さんもおみえになってということですがご多忙の中でございますので、代わって挨拶させていただきます。もうあと数えられるばかりの歳末となりました。皆様方には本当にお忙しい中、今日も出席が全員ということで有意義な会になるだろうと思っております。今回は第3回ということで進めているわけですが、現在というか、色々進めてきた中で、結局、この新制度は消費税との兼ね合いがあります。消費税が来年4月から3パーセントアップで、3パーセントの税収があるからということで、子育てに関する施策を充実するための状況がこれでできたわけです。清須市でも議会で本会の皆様のご意見を取り入れて、新制度がよかったと言われるような形で進めていけたらと思います。一方で、国民全部がいいねという税金のアップならいいですが、高齢者の施策については先行きが不安という声も聞きます。社会福祉協議会も市も予算が大変厳しい中、福祉事業サービスも見直しがされています。高齢者が長生きしてはいけないなというようなことを考えさせられる時代にならないように、この時代を支えていくのが次世代を背負う子どもさん達であります。それで、今日は色々な資料が出されています。その基礎となることが保護者の協力によって多くの数字があがっています。それらの資料を基にして、また、子ども・子育て支援計画の策定に向けて、この会を進めていかなければならないと思います。今日は皆様方のご意見を頂戴して有意義な会にしたいと思います。開会にあたり一言挨拶をさせていただきます。

ました。どうぞよろしくお願い致します。

●事務局

それでは、議事に移らせていただきます。会議の議事進行につきましては規定により会長が務めることとなっております。小川会長よろしく申し上げます。

3 議事

(1) 子ども・子育て支援新制度の概要について

○小川会長

座ったままで進行させていただきます。始めに本日の会議の会議録の署名委員は中川委員と藤田委員にお願いします。それでは資料は事前にお届けされていると思います。本日は3つの議題が設定されております。一つ目、(1) 子ども・子育て支援新制度の概要について、事務局からご説明をお願いします。

(1) 子ども・子育て支援新制度の概要について

●事務局 (資料1-1、資料1-2に基づき説明)

- ・資料1-1 子ども・子育て支援新制度の概要について
- ・資料1-2 新制度の保育所及び幼稚園について

○小川会長

続きまして議事が2つありますが、それぞれについて説明の後、一括して質問・ご意見をいただきますので、(2) 子育て支援に関するアンケート調査について事務局からご説明をお願いします。

(2) 子育て支援に関するアンケート調査について

●事務局 (資料2-1、2-1に基づき説明)

- ・資料2-1 子育て支援に関するアンケート調査単純集計表 (就学前児童保護者)
- ・資料2-2 子育て支援に関するアンケート調査単純集計表 (小学生保護者)

○小川会長

ありがとうございました。それでは次の説明をお願いします。

(3) 清須市次世代育成支援行動計画の事業評価について

●事務局 (資料3に基づき説明)

- ・資料3 清須市次世代育成支援行動計画事業評価の達成状況について

○小川会長

ご苦勞様でした。3つに分けての説明でしたが、一括ということですからどの部門でも結構です。ご質問、ご意見ありましたらお願いします。

○赤尾委員

アンケート調査の集計に関するのですが、有効回答率 48.7%という数字をみますと、回答いただいた方は教育に熱心な方や時間にゆとりのある方だと思われます。現実はずっと厳しい方向にあるのではと思われます。この数字をもとに施策に反映をされると思ひますが、そのあたりを考慮していただきたいということと、子どもを主体に考えると、答えたのは親なので、子どものニーズと合っているかどうか、そこも考慮して施策に反映していただきたいと思ひます。

○小川会長

ありがとうございました。今後の施策に有効なご意見をいただきました。

○原田委員

資料3の4ページの親育て事業のところですが、親が第一義務の責任者になるように、これからは家庭で子どもをしっかりと育て、親を育てていくということが必要だということが良く分かりました。子どもを育てるためにも親を育てるということが、このように事業名として出ていることは非常に良いと思ひます。そこでも、対象者が参加したいと思ひような講座を企画するということで、是非お願いしたいのは企画するから来てくださるのではなく、こちらから出向くという形が必要だと思ひます。今、私達の子育て支援の活動でも小学校に出向いて、親のためのワークショップをして、親の声を直に聞くという体験をさせていただひています。直接親の声を聞くということが大事だと思ひています。この取り組みをもう少し強化していただきたいと思ひます。講演だけではなく、体験型学習というものが子育て支援に大変役に立つと思ひますが体験型学習は、親の声を直に反映することができるので、体験しながら、実感しながら、そういう気持ちを育てて、親がまた家庭で子育てに取り込んでいくというように、頭だけではなく、コミュニティを深めながら親が子どもと付き合えるような講座を企画していただくことをお願いしたいと思ひます。

○小川会長

ありがとうございました。ご要望ありがとうございます。そういうことについてこれから進めていく中で実態が浮かび上がるといひますか、そんなことのお言葉をいただけるのが年明け2月くらいですか。

●事務局

本日は主な議題としましては、アンケート調査結果の単純集計結果を報告させていただきました。そうしたものを今度はニーズのクロス集計等を行いまして、清須市でのニーズ量を確保し、見込みを確定していくというのが今年度中の作業になってきます。今、会長が申しあげましたように来年2月頃には皆様方にお集まりいただいて会議を開催したいと思っています。

○小川会長

今後の計画に触れていただきました。その他、いかがでしょうか。

○塚本委員

資料3の6ページ、学校教育課で、事業に活用しやすいタブレット機器の導入などがあります。学校に素晴らしいパソコンが数年前に導入されたようです。それがあまり活用されていないように感じています。低学年で1年に数時間、高学年になると多分調べ学習などで活用されていると思いますが、そういう状況でタブレットPCの購入で予算の効率化につながるのでしょうか。予算の効率化というのはシンクライアントの導入ということでしょうか。シンクライアント導入という意味が良く分からないので説明がほしいと思います。また、清須市のパソコンやスマホの情報教育が少ない気がします。高学年ではすでにラインでのいじめや、なりすましがあつたと聞いています。そういう情報が先生方にはないのかしれません。パソコンやタブレットを使うなら情報教育も並行して充実してほしいと思います。

●事務局

パソコン教室の活用については、今後小学校の英語が必須化の動きもあり、全学校パソコン教室の充実はしていますので、高学年では割と活用しています。今後高学年はもっと活用することになると思います。シンクライアント、アイシティ教育ということで今言われていますが、ここも含めてまだ課題ということで、今後の情報化社会に向けて、子ども達が機器に慣れていくなどを課題として現在考えています。予算の面もありますし、即導入ができるという状況ではないのが現状です。これからの検討課題としてあげさせていただいているところです。スマホの関連は社会問題となっていて、低年齢化しています。各小中学校の生徒指導の担当の先生方等で各学校間の情報の交換をしています。特に中学校ではスマホを通じてのいじめや、小学校の一部でもそういうことがあるという情報はいただいていますので、各学校で情報モラルに関して適宜指導をしているところです。その回数に関してはまだまだ不足しているかと思いません。スマホは大変早いスピードで普及していますので、先生、保護者でも知らないうちに子ども達がそういう状況になっている事例は報告を受けていますので、今後この情報教育に関してはもっと学校の現場でも進めていかななくては

けないと、生徒指導の先生を中心に教頭や管理職との情報の交換をしています。今後、さらに情報教育の取り組みを進めていきたいと思えます。シンクライアントですが、最近企業でも進めています、少し前はクラウドというものです。データ管理について聞いたことがあるかと思えます。管理会社にサーバーを置いてデータやセキュリティ等の管理もしてもらおうというものです。そうすることによってデータを学校で持つというコストが下がることとなります。もう一つは管理会社がセキュリティを行うことによって学校で児童の有害情報などのセキュリティを高めるという効果が期待されます。コスト面も含めて導入していくという考えが国から出されていますので、検討していくというものです。

○小川会長

一つずつ事業の内容に触れて検討していくということを、この会議の場で行いますか。

●事務局

事業の内容につきましては、この会議の場でいただいているご意見を、整理して報告書を作成するときに反映できるものは反映させていただきます。すぐに反映されない内容については、次年度に子ども・子育て支援事業計画を策定する際に検討していきたいと思っています。今回皆様の意見に基づいたものを基礎とした施策の計画書を作成しますので、そこで反映していきたいと思っています。ご意見はぜひ言っていただきたいと思えます。

○小川会長

ありがとうございました。

○建部委員

資 2-1 の 13 ページの間 19、子育て支援センターを利用していますか、していないが 68.9%となっています。子育てのことでお母様方とお話をしている中で、その方は西枇杷島地区の方ですが、子育て支援センターが西枇杷島地区になく、新川子育て支援センターに電話をして行かれるみたいです。ところが、行事に参加したいと思っても電話しても、なかなか電話もつながらず、人数の制限もあるようで、電話が通じたときにはいっぱいはいけなかったということをお聞きしました。また、火曜日と金曜日が 0 歳児から 2 歳児の行事をされているようですが、0 歳児から 2 歳児は予防接種など火曜日に集中しているために行けない人も多いようです。母親はできるだけ外に出て、他の母親の話を聞きたと思っている方が多いので、できるだけ行けるようになればと思えます。子育て支援センターが西枇杷島地区にはないので、いずれ西枇杷島地区にも子育て支援センターをとと思えます。

●事務局

今、西枇杷島地区には子育て支援センターがありませんが、新しく保育園を整備した中に子育て支援センターの設置を検討してまいりたいと考えています。人数制限については行事の中で定員があったかもしれません。現場の状況も確認したうえで、行きやすい環境を整えていきたいと思ひます。行事も予防接種と重ならないように検討して行きたいと思ひます。

○建部委員

子育て支援センターを利用していないが68.9%となっていますが、利用していないのではなく、利用したくても利用できない人もいるということではないかと思ひます。

○原田委員

母親達は集まりを求めています。集まって母親同士の心の交流やふれあいや、コミュニティを求めているのをすごく感じます。資料3の2ページのところで保育者との交流のことが記載されていますが、お母さんたちが来やすい場所を作ってあげて欲しいと思ひます。ここにはきりんサークルの希望者が増加する見込みであると書いてありますが、まだ民間のボランティアで行っているサークルも沢山あります。民間のボランティアはお母さん方に広く周知するのが難しいです。皆さんに知ってもらうためには口コミしかできないので、広報などのお知らせなどどこかで取り上げてほしいと思ひます。私たちのサークルも子育てネット会議の中に入れてもらいましたが、親たちに向けてどんなことをやっているか、お互いに情報交換しています。資料の成果のところで、あまりできていないなど書いてあるのは残念です。母親一人で子育てなどの悩みを抱え込まない、孤立しないように交流することが大事です。そこに民間のサークルも加わっているということを知っていただきたいです。3ページでも子育てマップの作成もあまりできていないとあります。一番大事なことは母親がどこへいけばいいのか、どこに相談したらいいかが一覧の表になっていることだと思ひます。そういうものがあれば、母親は色々なタイプのことを自分で選択できると思ひます。ある特定のところ1箇所に行っていると、そこにサークルが出来上がっていた場合、新たに行く人がそのサークルに入りにくいということもあると思ひます。そうではなくて、色々なタイプのサークルを一覧の表に曜日、場所、時間、開催内容が書いてあれば、それでお母さん方も情報を知ることができて足を運ぶようになると思ひます。色々なサークルに足を運んでもらいやすいようなマップの作成をお願いしたいです。以前はあったのに今はありません。母親達からも作成の依頼があります。マップを渡してあげれば母親は選択をして仲間と気楽にいけるかと思ひます。そこには民間のボランティアで子育て支援をしている身近なサークルがあることをお伝えいただきたい

と思います。もう一つお願いですが、今私たちは体育館で実施していますが、今後体育館がなくなってしまうので、場所の確保ができません。児童館を借りたりしています。ボランティアなので母親達から代金をいただいて、それで場所を借りて実施することもあります。そこで、児童館との連携した子育て支援のサークル活動をお願いしようかとも考えています。4月からの場所の確保ができないと実施できませんので、お願いしたいです。父親参加もそうですが、アンケートも母親ばかりが書いていて非常に残念です。父親の巻き込み方、育児への巻き込み方も現実に向けて考えていく必要があります。行事に来るのを待っているだけではなく、どうしたら来てくれるのか考えないといけないと思います。以前男性だけのワークショップを企画しましたが、父親の言い分も聞いてほしいということで話を聞きました。そういうことを具体的に計画に結び付けてほしいと思います。よろしくお願いします。

○小川会長

その場に見える方はどのような方ですか。

○原田委員

親育ちが必要だと思っていて、私達は学校に直接出向いて実施していますので、生徒の親御さんです。

○小川会長

参加する年齢は問わないということですね。場所がないことよりも、来てもらっては困るということもあります。それは、総合福祉センターに世代間交流ルームがありますが、困っています。お世話をする人材やリーダーがいないからです。0歳から2歳くらいまでのお子さんが来ていて、常識的なモラルを守るということになっていない状況であります。

○原田委員

以前、その話を聞いて見させていただきました。母親達は話がしたいので子ども達を見ていない。それを見守る先輩やボランティアがいない状態でした。

○小川会長

場所がないとおっしゃっていましたが、そこを活用してもらってもいいと思います。その場所を親は、自由な場所と勘違いしているのではないかと思います。今は利用する際に、名前を書いて住所を書いてもらうしかできない状況です。世代間交流ルームだから、老人と世代間の交流ができるという思いがありますが、そこに老人がいても交流できない状況です。計画策定の時期にそこをどうするか相談したいと思います。

○原田委員

早速、考えたいと思います。ただ、高齢者だけのために活用するというのはやめてほしいと思います。高齢者も子どもの出入りを見るだけでも元気になります。今は核家族が多いので子ども達は高齢者と接する機会がなく、高齢者との交流の仕方を知らないのでお互いが離れてしまうと思います。高齢者の方は沢山知恵を持ってみえるので、切り離さないで、子どもさんの居場所に高齢者の方が見えるだけでも良いと思います。

○小川会長

子育て支援の講座のなかでも高齢者を呼んだりしていただければと思います。他はいいですか。

○小原委員

実際にSNSのことも大変重要なことですし、親育ても大事なことで、それらに触れられているということはよいことだと思って聞いています。アンケートですが、利用するかしないかということは目的課題に即した集計や分析方法があると、より意味が出るのかと思います。子育てについての話の意識は過渡期かなと思いました。伝統的な父親母親の役割があるので、母親は仕事をしても子育てをされていて罪悪感や葛藤をかかえてしています。サポートするのは今までは自然発生的な地域サポートだったと思います。これからは市町村とも社会的な人為的に作られたサポートが必要だと思います。その中で必要なのが、使いやすくわかりやすいインフォメーション、継続的な信頼のけるサポートが必要です。その中で、母親達が何かを学ぶということが大事かと思います。ただみるだけではなく目的意識があることで、そこへ行く負荷が下がるのではないかと思います。今回のアンケートは市町村の情報をすごく活用していただいたアンケート項目がある一方で、例えば病児保育に関して、お子さんが病気のときは母親が仕事を休むという回答が多かったですが、それに対してなぜそういう回答をしたかを考える必要があると思います。回答の中に、情報がうまく活用できない、病児保育を活用したいが、どう活用していいかわからないというものがありました。こういったアンケート項目を読み取る時は、一つの側面からだけではなく色々な側面から見る必要があります。本当に情報が活用されているかどうかというようなことも別の側面からみる必要があります。

●事務局

新川体育館ですが、基本計画を立てている段階で取り壊しをすることは決まっていますが、時期は明確ではありません。新川体育館を取り壊しする時期が決まった際に、利用している方には半年前に、この日までに移動してください

と周知を致します。時期は未定ですので利用できなくなるのは4月ということではありません。新川体育館の取り壊し時期が決まりましたら利用されている方には改めてご連絡させていただくことになります。

○小川会長

子育てに関する場所などはそれぞれ担当のところに相談していただけたらと思います。新しいニーズも入ってきたので計画策定に取り入れていくことをお願いします。今後またご意見ご提案がありましたら事務局にご連絡をください。沢山のご意見が出ましたので、事務局で取りまとめて調整していただきますので、これにて終了とさせていただきます。

●事務局

本日は長時間ありがとうございました。子ども・子育ての新制度は平成27年度からスタートいたします。限られた時間の中ではありますが、皆様方にはまたお集まりいただくことがあると思いますのでよろしくお願い致します。本日はありがとうございました。

4 閉会

上記のとおり会議の内容に相違ないことを証するため、ここに署名します。

平成26年1月19日

委員 中川 裕理 ㊟

平成26年1月19日

委員 藤田 友理 ㊟